

事業名	だれんもで 古代出雲神話村づくり
実施主体	大社デザイン
県担当課	文化財課古代文化センター

## 事業の成果

## 事業の目的 [地域づくり]

- 古代出雲歴史博物館(平成19年度開館を予定)の開設を機会に、住民が町の行く末を今一度考え、まちづくりに参画する環境の構築を図る。

## 事業の内容

- 「出雲創造伝統文化塾」を開設し、地域住民や行政関係者が集まって、大社町の藤間家や出雲国造北島家、神門通りの空き店舗等を舞台に、今後の大社のまちづくりに欠かせないテーマである「伝統文化の現代への有効活用」に向けて、伝統文化を学ぶ場とした。
- 地域住民と行政がコミュニケーションできるたまり場として、旧JA大社支所に「官民協働企画基地(ラボ大社デザイン)」を開設し、イベントやまちづくり企画などの活動を通じてお互いの意思疎通を図った。
- 歴博の開館1年前イベントに参加し、「伝統文化、伝統資源の経済化」をテーマにしたシンポジウムを開催(3月18日)した。

## 目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 出雲創造伝統文化塾は4回開催し、その講師とのネットワークも作ることができた。
- 旧JA大社支所での正月おもてなしイベントでは来場者7,000人、シンポジウム時の入館者700人という成果があった。
- ただし、事業期間が短かったことから、取組みに対する住民の理解と参画を十分に得ることができなかった。
- また、今までの行政と住民とのまちづくりでは、事業が進むにつれ、すれ違いが生じ、そのすれ違いが修復できずに事業実施されていたことが、行政と住民相互の不信感となっている。地域住民がそのイメージを全て払拭できるような企画力には欠けたと思う。

## 反省点・改善点

- 企画にあたり、人々に何か楽しさを感じさせることの出来るテーマにすれば、スタッフも楽しく、もっと多くの住民に参加してもらうことができた。
- 短期でも今後の資金を確保する事業とし、企画の事業化を進めていく必要があった。

## 協働の効果

## 県との協働内容 [協働して実施した]

- イベントなどの事業開催にあたり、住民と共に汗をかくことはもちろん、それぞれの立場(壁)を越えた本気のコミュニケーションと、それを通じた強固なネットワークの構築を目指していただくことをお願いした。

#### 県との協働効果 [ 十分効果があった ]

- 地域住民と県がひとつのテーマ・目標を達成するために集まったことで、お互いの立場、状況や想いを理解し合うことができた。
- また、地域の各団体などに事業への参加・お願い・呼びかけなどに行く際にも、県の担当者に快く同行してもらったことで、我々の団体・事業を保障していただく形となり、大変スムーズに事業を遂行することができた。

#### 県への要望事項

- 事業実施に当たって行政との思いがすれ違うこともあり、そうした場合に当初の事業内容を変更できないと、住民側のモチベーションが下がり、行政側では事業が十分に実施してもらえず、お互いに不満が出てくる。十分に議論した結果であれば、より柔軟かつ有機的に事業内容を変更できる環境・体制をお願いしたい。
- また、事業採択に当たっては、住民側の地域づくりに対する思いを育てる視点をもってもらいたい。

#### 反省点・改善点

- 人はそれぞれの価値観があり、たとえ公共の組織であっても担当者の思いは様々であり、全ての思いを考慮してプランニングすると、事業内容が盛り込みすぎになり無理が生じてしまうことを理解することが必要と感じた。

#### 市町村との協働 [ 協働して実施した ]

- 事業スケジュールの関係から組織として市の協働参加が難しかったが、地域住民として個人的に多くの市職員に、イベントの手伝いから、事業についてのアドバイス、情報提供、周知活動など、他のメンバーと分け隔てなく協力してもらった。
- このように、県や市としての協働だけでなく、個人として地元の活動へ積極的に参加してもらうことが、地域づくりの大きな力となるし、協働の意識醸成につながると思う。

#### 事業の継続

#### 事業成果の活用 [ 活用されている ]

- 「出雲創造文化塾」、「まちづくり拠点(ラボ・大社デザイン)」は、徐々に地域住民に認識されつつある。

#### 事業の継続状況 [ 助成を受けずに継続実施している ]

- 「出雲伝統創造文化塾」は、全て参加者からの参加費で継続実施している。
- 「まちづくり拠点(ラボ・大社デザイン)」は、レンタルスペースとしての使用料、企業スポンサーの協力、自主財源によって運営している。

#### 協働による発展 [ 協働により発展できる ]

- 今後、大社地区においては、出雲市による大掛かりなまちづくり系ハード事業が予定されているが、住民・行政(県・市を問わず)がコミュニケーションできる重要拠点として認識されている「まちづくり拠点」の機能を生かした発展的取り組みを行うことを望む。

